

新興国株式と企業業績

ポイント① 長期では概ね業績に沿った推移

新興国株式は2016年の初めに底入れし、足元でも好調なパフォーマンスが継続しています（図1）。MSCI Emerging Market Index（米ドルベース）の年初来騰落率は+24.7%となっており（8月7日現在）、同期間の先進国株式（MSCI World Index（米ドルベース））の騰落率+12.6%を大きく上回っています。

新興国株式とEPS（1株当たり純利益）の長期推移をみると、概ね業績に沿って株価が動いてきたことがわかります。ただ、2010年以降、リーマンショックからの急回復を経たEPSが減少傾向で推移するなか、株価が業績に出遅れる状況が続いていました。新興国経済に対する過度に悲観的な市場の見通しも、株価が割安に放置されていた要因と考えられます。足元、新興国経済を取り巻く不透明感が後退し、EPSの水準が回復に転じるとともに、ようやく株価も業績に追いついてきた形です。

ポイント② バリュエーションは過去平均並み

一方、新興国株式のPER（過去12か月実績ベース）の長期推移をみると、一時的に大きくかい離する局面はあったものの、概ね15倍程度を中心に変動してきたことがわかります（1995年9月末以降の平均値は15.2倍、図2）。7月末時点の実績PERは15.5倍となっており、ほぼ過去平均並みの水準で割高感はありません。

また、7月末時点の新興国株式の12か月予想PER（FactSetコンセンサス予想ベース）は12.5倍で、先進国株式の16.8倍と比較しても低位に留まっています。

ポイント③ 堅調な利益成長が見込まれる

新興国株式の業績については、今後も堅調に推移する見通しです。FactSetコンセンサス予想ベースの新興国株式のEPS成長率は、2017年の20%超に続き、2018年、2019年ともに二桁成長が見込まれており、先進国や日本と比較しても相対的に堅調な見通しです（図3）。

利益成長にけん引される形で、新興国株式のパフォーマンスは、今後も堅調に推移していくことが期待されます。

図1：新興国株式とEPSの推移

期間：1995年9月末～2019年12月末



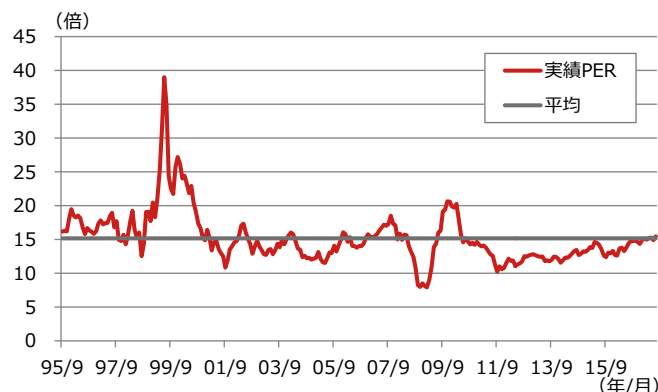
新興国株式と実績EPSは2017年7月末まで、月次。

新興国株式：MSCI Emerging Market Index（米ドルベース）、実績EPSは過去12か月実績ベース、予想EPSは2017年末、2018年末、2019年末のFactSetコンセンサス予想値。

（出所）FactSet、Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図2：新興国株式の実績PERの推移

期間：1995年9月末～2017年7月末、月次



実績PERは過去12か月実績ベース。

（出所）FactSetデータより野村アセットマネジメント作成

図3：新興国・先進国・日本のEPS成長率見通し

期間：2017年～2019年、年次

	(%)		
	2017年	2018年	2019年
新興国	23.3	11.6	10.8
先進国	13.2	10.0	9.4
日本	14.3	9.3	7.4

（2017年7月時点）

新興国：MSCI Emerging Market Index（米ドルベース）、先進国：MSCI World Index（米ドルベース）、日本：東証株価指数。FactSetコンセンサス予想ベース。

（出所）FactSetデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。